

平成7年1月～平成29年10月までに当センターにおいて

病理解剖をお受けになった患者さんのご遺族の方あるいは手術を受けた患者さんへ

(1) 研究の概要について

当センターでは下記の研究機関と共同で「老化に伴う呼吸器・血管の形態変化と関連する老年病の病理学的検討」を実施しております。

加齢とともに肺の機能は低下するとともに、肺気腫や肺がんなどの発症も増加します。また、肺気腫患者には動脈瘤の合併が多いと言われており、いずれも肺や血管を構成する弾性線維の異常が原因で病気を発症する可能性が考えられています。そこで、肺や血管に存在する弾性線維が加齢とともにどのように変化するのか、そしてその変化がどのように病気と結びつくのかを検討する予定です。

具体的には平成7年1月～平成29年10月までに東京都健康長寿医療センター（旧東京都老人医療センターを含む）で病理解剖された方あるいは肺や血管の手術を受けた方が研究の対象となります。病理解剖のご承諾の際に遺伝子検査を含む医学研究へのご協力にもご承諾いただいておりますが、改めて研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。また、手術を受けられた方は手術の同意書とともに研究へのご協力をお願いしておりましたが、改めて研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力をお願い申し上げます。

この研究への参加をご希望されない場合や、また研究に関するご質問がある場合には、下記の問い合わせ先へご連絡ください。

研究題名：「老化に伴う呼吸器・血管の形態変化と関連する老年病の病理学的検討」「承認番号：R17-39」

研究期間：承認後から平成32年3月31日

研究責任者（所属・職名・氏名）

東京都健康長寿医療センター・病理診断科・部長

新井富生

研究分担者（所属・職名・氏名）

東京都健康長寿医療センター・呼吸器外科・医長

日野春秋

日本医科大学・呼吸器ケアクリニック・所長

木田厚瑞

日本医科大学・呼吸器ケアクリニック・講師

石井健男

日本医科大学・呼吸器ケアクリニック・病院講師

服部久弥子

自治医科大学情報センター医学情報学・准教授

三重野牧子

(2) 研究の意義・目的について

肺や血管を構成する弾性線維の異常や加齢変化が明らかになれば、肺気腫や動脈瘤の発症メカニズムの解明、予防法、治療法の開発につながります。

(3) 研究の方法について

ホルマリン固定パラフィンブロックとして保存していた組織に対し、免疫組織学的に弾性線維を構

成する物質の量を測定します。そして、その量と年齢、病気との関連を検討します。

(4) 資料の保管と、他の研究への利用について

本研究を行うときには、個人情報とは完全に分離した形で扱っておりますので、患者さんの個人情報が漏れる心配はありません。また、国内外に研究の成果を論文・学会等で発表する場合も、個人の特定はできないようにしております。他の研究への利用はありません。なお研究終了後のデータの扱いについては、論文の根拠となるデータは発表後10年間保管します。保管責任者は主任研究責任者とし、保管場所については東京都健康長寿医療センターの所定の棚において施錠可能な状態で保管します。

(5) 問い合わせ先

東京都健康長寿医療センター病理診断科 新井富生

〒173-0015 東京都板橋区栄町 35-2

電話 03-3964-1141 内線 2410 (平日 9:00~17:00)